

NEWS23 週刊報告 12月2号ダイジェスト版

対象番組：NEWS23(TBS)

対象期間：12/11(月)～12/15(金)

・12月11日(月)

日馬富士暴行事件についての知人の証言、北朝鮮の労働者、ノーベル平和賞について、宮司殺害事件、民進党有田氏の離党届提出などが報じられました。

北朝鮮の労働者、ノーベル平和賞、民進党の有田氏離党については検討・検証を行いました。特に問題は見られませんでした。なお、北朝鮮労働者、ノーベル平和賞については検証者の所感を記しました。

・12月12日(火)

北朝鮮による拉致の被害者家族に相次ぐ悲報、民進党に解体論、核のゴミの説明会で参加者に謝礼、新幹線に初の重大インシデント、今年の漢字などが報じられました。

拉致問題、民進党の今後と政界の動き、核のゴミの説明会、今年の漢字については検討・検証を行いました。民進党の今後と政界の動きについての報道では放送法第四条に反する可能性のあるシーンがありました。また、民進党の今後と政界の動き、核のゴミの説明会については検証者の所感を記しました。

・12月13日(水)

米軍機落下物、新幹線に亀裂、伊方3号機運転差し止め、日馬富士暴行事件について貴乃花親方協力姿勢一転、トランプ氏応援の候補敗北などが報じられました。

米軍機落下物、伊方三号機運転差し止め、トランプ氏応援の候補敗北については検討・検証を行いました。米軍機落下物については一部、放送法第四条に抵触するシーンおよび印象操作の疑いがあるシーンが見られました。なお、米軍機落下物については検証者の所感を記しました。

・12月14日(木)

米・国務長官の「条件なし対話」発言、横綱暴行事件から一ヶ月し貴乃花夫人が講演、来年度の税制大綱が決定、マクロン仏大統領の働き方、米軍のヘリから窓落下事件などが報じられました。

税制大綱については放送法第四条に抵触する可能性のあるシーンが一部ありました。また、米軍ヘリからの窓落下事件については印象操作の疑いがあるシーンがありました。なお、税制大綱については検証者の所感を記しました。

・12月15日(金)

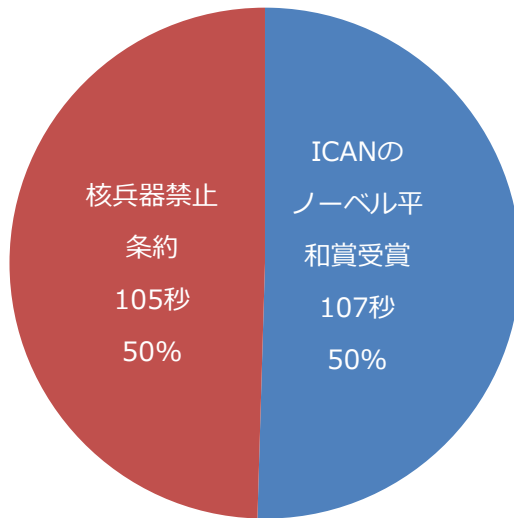
中国の警備員が韓国メディアを集団暴行、北朝鮮漁船、理不尽な校則について、日馬富士暴行事件で貴ノ岩への聞き取りが困難、富岡八幡宮殺人事件、ジェンキンスさんの告別式と北朝鮮拉致問題、国連安保理閣僚級会合に北朝鮮の大使も出席などが報じられましたが、特に問題は見られませんでした。また、理不尽な校則については検証者の所感を記しました。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

放送法遵守を求める視聴者の会

NEWS23 週刊報告 12月2号詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2017年12月11日
<p>出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈 ※宇内キャスターは取材</p>		
<p>検証テーマ：北朝鮮の労働者、ノーベル平和賞、民進党から有田氏が離党</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【速報】ニューヨーク中心部で爆発 ・【独自】日馬富士暴行事件、知人が証言 ・【現場から、なくせ危険運転】 【独自】東名夫婦死亡事故で新証言 <p>※今日から始まった不定期のシリーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北朝鮮の労働者 ・ノーベル平和賞 ・宮司殺害事件 ・福井県、一昨日から三歳男児行方不明 ・民進党、有田氏離党届 地方議員 43人も離党 ・スポーツ報道 ・天気予報 ・【速報】ニューヨーク中心部で爆発、最新情報 <p>容疑者はバングラデシュ国籍か</p>		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北朝鮮の労働者 <p>国際社会からの北朝鮮への態度が硬化している中で、北朝鮮から国外に出稼ぎに出ている労働者の数が減少していること、これまで北朝鮮労働者を受け入れてきた中国の丹東では北朝鮮のレストランの閉鎖や帰国する北朝鮮労働者が目立っていること、モンゴルではモンゴルにいる全ての北朝鮮の出稼ぎ労働者を帰国させることの正式発表と来年以降は北朝鮮労働者に対して新規のビザを発行しないことを決定したということが報じられた。また、併せて北朝鮮労働者を斡旋している男性から、北朝鮮労働者の労働環境についての証言が紹介された。このトピックについて当てられた時間は261秒だった。4条の観点からは特に問題は見られなかった。</p> ・ノーベル平和賞受賞 <p>広島で被爆したサーロー節子さんが被爆者として初めてノーベル平和賞の授賞式で演説し核兵器の廃絶を訴えたこと、サーローさんは7月に採択された核兵器禁止条約に核保有国が参加しなかったことに批判したことが報じられた。このトピックについて当てられた時間は212秒だった。また、ノーベル平和賞受賞について焦点を当てた部分と、核兵器禁止条約に焦点を当てた部分の時間配分及び比率は以下のとおりであった。</p> 		



このトピックについては4条の観点からは特に問題は見られなかった。

- ・民進党、有田氏らが離党

民進党の有田芳生参議院議員が民進党に離党届を提出し立憲民主党への入党を申し込むこと、民進党東京都連に所属する都議や区議などの地方議員43人が離党していたことが報じられた。このトピックについて報じられた時間は35秒だった。このトピックについては4条の観点からの問題は特に見られなかった。とはいえ、野党再編を巡る報道は今後も注目する必要があると考える。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

- ・北朝鮮労働者

出稼ぎに出ている北朝鮮労働者についてVTRのナレーションでは当然のように「各地に派遣されている労働者」、「世界各国に派遣されている北朝鮮労働者」という言葉を使っていたが、「派遣」ということはどこが派遣元なのか、北朝鮮が出稼ぎ労働者を組織的に派遣しているということなのか、組織的に派遣されているのであればどういった手続で派遣されているのか、気になるところである。

- ・ノーベル平和賞と核兵器禁止条約

星キャスターが「今年は核兵器禁止条約に日本政府が入らなかったという流れと、一方でICANがノーベル平和賞を取りましたよね、ですからその被爆者の団体や市民運動は頑張っているなという溝が非常にくっきりした年でもありますよね。こういう時は本当は河野外務大臣とかですね、その政治家が市民運動と向き合って溝を埋める努力をしなくちゃいけないんですけども、まだまだ不十分ですよ。」とスタジオでコメントしていた。

しかし、今回授賞式に参加した田内正宏駐ノルウェー大使は「核保有国が参加できるような核軍縮そして不拡

散を進めていくというのが我々日本政府の考えですから」と日本政府の立場を説明している。また、事実として核保有国は参加しておらず、NATO 加盟国や韓国も参加していない。こうした中で核保有国が参加できない核軍縮にどの程度の有効性があるのかは疑問である。

また、星キャスターの言う「政治家が市民運動と向き合って溝を埋める努力」というものがいかなるものを指すのかは分からないが、他方で、こうした政治家、今の外交安全保障政策や「核保有国が参加できるような核軍縮そして不拡散を進めていく」という日本政府の考えを支持している有権者が一定数いるはずである。星キャスターのいう「溝が非常にくっきりした」というのは、政府・政治家と被爆者団体や市民運動の間の溝だけではなく、被爆者団体や市民運動とそういったのに参加していない市民・有権者の間にも溝が存在していて、それが浮き彫りになったとも言えるはずである。そうであるならば、なぜそうした市民の間での溝の存在を指摘しないのか、疑問である。「政治家が市民運動と向き合って溝を埋める努力」をしないといけないのなら同様に、市民運動も自分たちに賛同しない市民や有権者に対して「溝を埋める努力」をする必要があるのではないだろうか。そうした多くの物言わぬ市民や有権者の存在を考えずに政治家に対してのみ「市民団体と向きあって溝を埋める努力を」というのは放送法第四条の観点から第四条第一項二号の政治的公平や同四号の意見の別れる問題についての論点の多角的な提示という点に抵触するあるいは不十分であるとまでは言えないものの、トピックの締め方としては一方的であるという印象を受けた。

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2017年12月12日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ：北朝鮮拉致問題、民進党の今後、核のゴミ、今年の漢字		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“最強寒波”が列島へ ヒートショックや寒波の原因としてラニーニャ現象が紹介された ・北朝鮮拉致問題 拉致被害者の家族に相次ぐ悲報 ・民進党に解体論 ・【追跡】核のゴミ ・福井県あわら市、市長室で不適切な行為 ・新幹線に初の重大インシデント、「のぞみ」台車枠に亀裂 ・【現場から、なくせ！危険運転】 東名死亡事故とカーナビ解析、交通捜査の証拠“見える化” ・天気予報 ・スポーツ報道 ・今年の漢字、発表 今年の漢字は「北」 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北朝鮮拉致問題 拉致被害者曾我ひとみさんの夫チャールズ・ジェンキンスさん、拉致被害者増元るみ子さんの母親信子さんが昨日今日と相次いでなくなったことが報じられ、残された時間は短いということが強調された。VTRではジェンキンスさんの過去の映像や、るみ子さんの両親の過去の映像などが紹介された。このトピックについて報じられた時間は516秒だったが、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。 ・民進党に解体論 民進党所属の国会議員や地方議員の離党や民進党執行部の間から解党論や党名変更、解党的出直しの議論が上がった、ということが報じられた。民進党から立憲民主党に流出した国会議員として有田芳生参議院議員や会派所属だった川田龍平参議院議員の名前が上がっていた。また、離党する都議会議員として東京都の西沢圭太都議のコメントが紹介された。他方で、解党や党名変更、解党的出直しに対する反対論として岡田克也元代表や蓮舫元代表のコメントも紹介された。 スタジオでは星キャスターが「この動きを見るといくつか思惑が見えるんですね。まずは政党ですけれども1/1に現在で政党金というのが分配されるんですね、そのためになるべく多くの議員を抱えたい、というのが思惑なんですね。それから議員本人は1年後に参議院選挙があるんで自分はどこの党から出ると有利かなという政治家としての思惑がありますよね。それから労働組合は労働組合で今度どこの政党から自分たちの組織内の候補を擁立したらいいかなということもあって」と、政党・議員・支持基盤である労働組合のそれぞれの思惑を説明しつつ、「しかし考えてみるとこれは個別の利益、個利個略ですよね。やっぱり今一番野党にとって大事なのは自民党にどう向き合うか、それもどうやって一つの塊として連携しながらどう向き合うのかということを最優先に考えてもらわないと困りますよね。」というコメントでトピックを締め括った。 		

「今一番野党にとって大事なのは自民党にどう向き合うか、それもどうやって一つの塊として連携しながらどう向き合うのかということを最優先に考えてもらわないと困ります」というのは、どういった理由で困るのかよく理解できないが、また日本維新の会や希望の党のような自民党・自公政権への向き合い方もあることを踏まえると、野党間にも政策的な争点や路線の違いがあるといえる。このように、野党の在り方も多様であるなかで野党が一つの塊として連携して自民党と向き合うというあり方のみを推奨しトピックを締め括るような報じ方・構成は、放送法第四条第一項二号「政治的に公平であること」に反する可能性があるのみならず、野党間にある争点を覆い隠す効果があるという点において同四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」にも反している可能性がある。

なお、このトピックについて報じられた時間は324秒だった。

・核のゴミ

核のゴミの処分についての住民説明会で、主催者側が参加者に報酬を約束していたこと、について報じられた。核のゴミの処分方法自体についての是非や議論はほとんどなく、基本的に説明会においてNUMOの委託を受けた広告会社が学生に謝金を支払う形で参加者を募っていたことが問題として取り上げられていた。

放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。また、このトピックについて報じられた時間は433秒だった。

・今年の漢字

日本漢字能力検定協会では北朝鮮のミサイルが北海道おきに落下したことから平和と安全の尊さを実感した年だったのでは、という理由で今年の漢字を「北」と発表したことが報じられた。また、スタジオでは星キャスターが「今年の漢字は付度の付という字かなと思ったんですけども、私はちょっとこの排除の排、ちょっとなんかこうやってみると変な感じのような気もしますが、あの、小池百合子が排除の論理って行ってアレで一気に政治の流れが変わりましたよね、新党の期待も急速にしばみましたよね。それとアメリカとヨーロッパでね、排外主義というのがあって来年は少しでもそういうのがなくなるといいですよ。」と、予想と星キャスター自身の選ぶ今年の漢字についてコメントとしていた。

放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。また、このトピックについて報じられた時間は59秒だった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・民進党に解体論

星キャスターの「今一番野党にとって大事なのは自民党にどう向き合うか、それもどうやって一つの塊として連携しながらどう向き合うのかということを最優先に考えてもらわないと困りますよね。」というコメントには正直なところよく分からない、という感じがある。そもそも野党、というのは与党に対しての便宜的な集合に過ぎず、その目指すところは政党によって様々であり、決して「野党」という政治勢力があるわけではない。与党ではない政党を支持している有権者にとっては自分たちが求めている政策が実現されることこそが一番であり、

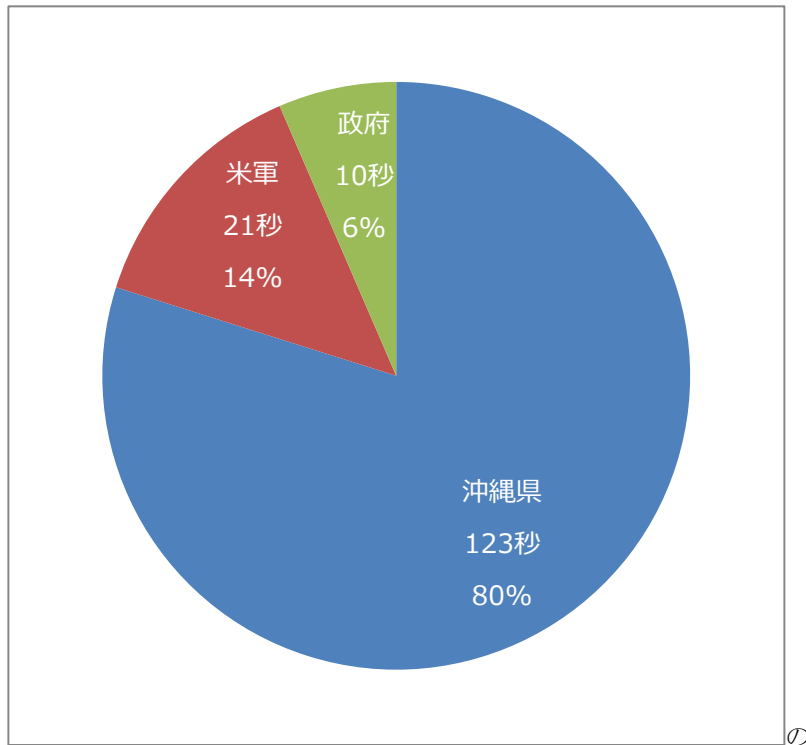
野党が一つの塊として連携しながら自民党と向き合うことよりも、政党は支持者が求めている政策や自らの掲げている政策をどう実現するかを最優先に考えてもらわないと、それこそ有権者・政党支持者としては困る話ではないだろうか。

だいたい、一つの塊として連携できないからこそ、先の選挙で小池百合子氏から「排除」発言が出たのであるし、小池百合子氏の排除発言を受けてもなお民進党系の候補者が希望の党、立憲民主党、そして無所属と3つに分裂して選挙を戦ったのではなかったのか。また、小池百合子氏が希望の党への参加に際して示した「踏み絵」で憲法改正や安全保障政策が挙げられていた。希望の党と立憲民主党・民進党とではこの点については大きな隔たりがあるのではないだろうか。

・核のゴミ

星キャスターはスタジオで「お金を払ってきてもらっている、というのはいわばサクラですからね、こういうことを何回やっても住民の理解を得られるはずはありませんよね。核のゴミの処理というのは重要な国策ですのでこういう問題でアリバイ作りのようなことをやられていいのか、という問題になってきますよね。」とコメントし、このトピックについての報道は全体として謝金を支払う形で参加者を募ることにに対して批判的であった。しかし、参加費無料と言っても平日昼間という時間で交通費を払ってまでそうした説明会に参加しようという人は元々その問題に一定の関心がある人だろう。そうではなく、元々は関心のない人に話だけでも聞いてもらうためにはどうすればいいのか、という視点も必要だと思う。そうした中で、もしかすると交通費であるとか一定の謝金支払もありだ、という意見もありうるのではないだろうか。

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2017年12月12日									
出演者：雨宮塔子、皆川玲奈、駒田健吾、星浩、宇内梨沙											
検証テーマ：米軍機落下物問題、伊方原発3号機差し止め、トランプ氏応援の候補敗北											
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米軍機落下物 ・新幹線に亀裂 ・アートの島に太陽光発電所 ・伊方3号機運転差し止め ・貴乃花親方協力姿勢一転 ・羽生氏、井山氏に国民栄誉賞検討 ・埼玉で木造住宅全焼 ・なくせ！危険運転 ・スポーツ情報 ・天気情報 ・トランプ氏応援の候補敗北 											
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米軍機落下物問題 <p>米軍のCH53から部品が落下した問題について報道がなされた。賛否の時間配分、比率は以下の通りである。賛成が9秒、反対が184秒、どちらでもないシーンが438秒あった。</p>											
<table border="1"> <caption>賛否の時間配分と比率</caption> <thead> <tr> <th>意見</th> <th>時間 (秒)</th> <th>比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>賛成</td> <td>8</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>反対</td> <td>149</td> <td>95%</td> </tr> </tbody> </table>			意見	時間 (秒)	比率 (%)	賛成	8	5%	反対	149	95%
意見	時間 (秒)	比率 (%)									
賛成	8	5%									
反対	149	95%									
<p>今回は米軍側の安全管理の問題ということもあり、比率で大きく反対意見が突出しているのも致し方ないと考えられる。なお賛成の8秒は緑ヶ丘保育園の落下物に関して、米軍側の回答で飛行中のものではないと否定したことから賛成意見としてカウントした。</p> <p>また報道内において沖縄県の住民や関係者、政府、米軍と発言者別にまとめたのが以下のグラフである。沖縄県の住民、関係者の意見が123秒、米軍側の意見が21秒、政府側の意見が10秒あった。</p>											



の
 沖縄県の住民、関係者の意見が大きく取り上げられているものの、今回の場合は基地問題というより落下物に関する報道であるため、当事者の沖縄県民の意見が大きく取り上げられるのも、やむを得ないと考える。しかし一部においては、そういった事情を汲んでも大きく公平性を欠くような報道があった。

上記の報道の多くは宜野湾市立普天間第二小学校での落下物問題についてであるが、それと一緒に緑ヶ丘保育園での落下物についての問題も報道された。前者については米軍が部品の落下を認めているものの、後者は完全に否定している。部品の落下を否定する米海兵隊のコメントは紹介されてはいたが、現地の状況を伝えた駒田健吾アナウンサーが「1週間に2度子供たちの命が晒されたという事で、大きな怒り、不安をここで感じました。」と普天間第二小学校での部品落下問題と並列する形で語っており、緑ヶ丘保育園の問題において米軍の立場を完全に無視したものであった。

また部品の落下による衝撃を報道する際に「落下した窓の写真。アクリル製とみられる窓が割れているのが分かります。」や「2年前 JNN は落下実験を行いました。重さ 10kg の看板を高さ 15m から落とす設定。アルミ製の枠は歪みアクリル製の板は粉々になってしまいました。」など、その衝撃の大きさを伝えていた。しかし番組内における緑ヶ丘保育園の落下物とされる写真を見ると、大部分がアクリル製なのにもかかわらず破損している様子が見られない。これは明らかな矛盾であり事実を報道しているとは言い難い。

以上のことを踏まえると放送法 4 条第 1 項第 2 号の「政治的に公平であること」同第 3 号の「報道は事実をまげないですること」に抵触すると結論する。

・伊方原発 3 号機差し止め

広島高裁が抗告審において火山噴火時の危険性について、原子力規制委員会の判断は不合理とし、四国電力が運転停止を命じたもの。検証シートを作成したところ、賛成は 6 秒、反対は 14 秒、どちらでもないシーンは 52 秒あった。反対意見の比率が高いが、報道時間を考慮すると誤差と考えられ公平な報道がなされていたと言える。

・トランプ大統領応援の候補敗北

アラバマ州でトランプ大統領が応援する候補の落選について。検証を行ったものの賛否が明確な発言は皆無であり、トランプ政権の現状について客観的な報道がなされていた。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

今回の部品が落下したのはCH53であるのに、現地の映像でオスプレイが上空を通過している映像の後に、集会を開いた市民の「オスプレイ撤去」の旗を映すなど、オスプレイにヘイトが向くような編集が何故かなされていた。

逆にCH53に関しては「CH53というのは古い機体です。安全を損なうような部品は常に新しい部品で交換している。」「機体の型式の古さではなく日々のチェック体制が重要だと指摘します。」などCH53という機体の型式の古さに対する謎の擁護が加えられていた。

また駒田アナウンサーの「事故があった学校の上空をですね、日没後オスプレイが低空で飛んでいました。」とオスプレイの飛行を明確にレポートしていたのに対して、「今日事故を起こしたヘリコプターもこの上空を飛行したと見られています。」と当時機に関しては曖昧で、注意が払われていないのも恣意性が伺われる。

検証者所感

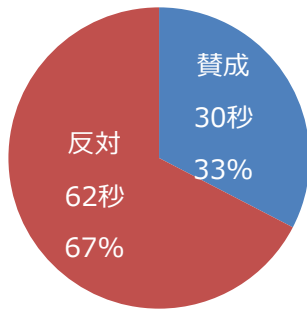
・米軍機落下物

米軍機の落下物に関して、責任の所在が明らかになっている普天間第二小学校の問題と、未だに不明な点が多い緑ヶ丘保育園を一緒くたにした報道は先走り過ぎのように感じた。そして番組内で落下物の危険を示した実験や現場の写真、映像と矛盾する案件を事実として報道するのは、番組内における事実確認が不十分なのではないかと疑われても仕方ないだろう。

また今回の事件で直接的な関係がないオスプレイを取り上げていた点も、米軍機事故の問題を考えていくうえでピントをぼかしかねない報道であったと思う。基地負担を考えるうえで機体の事故率などは指標になりえる。それを無視して主観的な感情により機体を見てしまうと基地負担を正しく理解できなくなってしまうのではないだろうか。

NEWS23 週刊報告 12月2号詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2017年12月14日
出演者：【キャスター】駒田健吾、雨宮塔子、皆川玲奈、星浩、宇内梨沙		
<p>検証テーマ：・税制改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米軍のヘリから窓落下事故 翁長知事が上京 ・米・国務長官の「条件なし対話」発言 政府は発言を修正 		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電動アシスト自転車で女性死亡事件 警察は書類送検 ・米・国務長官の「条件なし対話」発言 政府は発言を修正 北朝鮮は国際会議を突如欠席 ・横綱暴行事件から一ヶ月 貴乃花夫人が講演 ・税制改革 来年度の税制大綱が決定 ・セカイは今 マクロン仏大統領の働き方 ・なくせ、危険運転【第4弾】 イギリスの「スパルタン作戦」とは ・米軍のヘリから窓落下事件 翁長知事が上京 ・第4の携帯電話会社誕生へ 楽天が名乗り ・東名高速で事故 男性2人死亡 ・無人運転 公道で初実験 ・スポーツ報道 ・天気予報 ・天皇陛下「退位の儀式はできるだけ簡素に」というご意向 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税制改革 来年度の税制大綱が決定 <p>与党で決定された税制改革についてその中身についてVTR内で説明がなされた。従来の税制改革について変更点と新しく導入される税についての二つに大別される内容であった。これらの説明に加えて、それぞれの税制に対する街の人の声が紹介された。</p> <p>スタジオに戻って、冬のボーナスの使いみちについて貯金が1位であったことにふれ、消費が促進されないことを懸念する星キャスターの意見が述べられた。</p> <p>賛否についての時間配分とその比率は以下の通り。</p> <p>賛成：30秒（33%） 反対：62秒（67%） なおどちらでもない時間が274秒あった。</p>		



賛否バランスが3:7という比率であるという結果は偏っていると判断される。今回の税制改革では高所得層からの税収増益を見込んでいることは確かだが、低所得層に対しては可能な限り増税を行わないという形で公平感を出す努力が為されている。その点からの報道が無かったという点で、放送法第4条第2項、政治的に公平であることに抵触するおそれがある。

・米軍のヘリから窓落下事件 翁長知事が上京

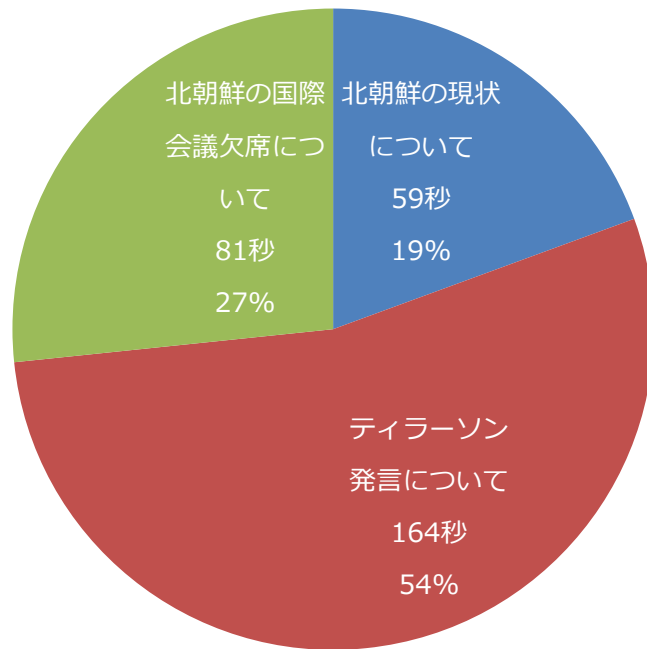
米軍ヘリの窓が小学校の運動場に落ちた事故について翁長沖縄県知事が抗議のために上京したことが報道された。今回の報道では賛否に関わる内容は無かったが、印象操作が疑われる箇所があったため、下記に詳述する。今回の報道の時間は62秒であった。

・米・国務長官の「条件なし対話」発言 政府が発言を修正

北朝鮮問題についてアメリカのティラーソン国務長官の発言が波紋を呼んでいることが伝えられた。VTR冒頭、北朝鮮の現状と反米姿勢が未だ強いことが伝えられた後に、ティラーソン国務長官の発言が紹介された。之に対して政府からすぐに否定する内容が出されたことについて、北朝鮮問題に関するアメリカの意思決定の軸が定まっていないことが問題提起とされた。また、北朝鮮が国際会議を欠席した事について、同日にアメリカの北朝鮮問題対策特別代表が訪タイしていることで、水面下で接触があるのではないかと伝えられた。

この報道では賛否に関わるようなトピックは存在しなかった。各トピックに割かれた時間配分は以下の通り。
北朝鮮の現状について：59秒（19%） ティラーソン発言について：164秒（54%）

北朝鮮の国際会議欠席について：81秒（27%） なお、どれにも該当しない時間は存在しなかった。



最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・米軍ヘリからの窓落下事件 翁長知事が上京

駒田キャスターがこのトピックに関して報道を始めた際のテロップが「『窓』落下 抗議に対応したのは・・・」と出された。この書き方では、上京した翁長知事への対応がおざなりなものであったかのような印象を与えると考えられる。実際に対応したのは防衛省の山本副大臣であったことが伝えられたが、テロップに含みを持たせる必要性は無いという意味では印象操作に該当しかねない。

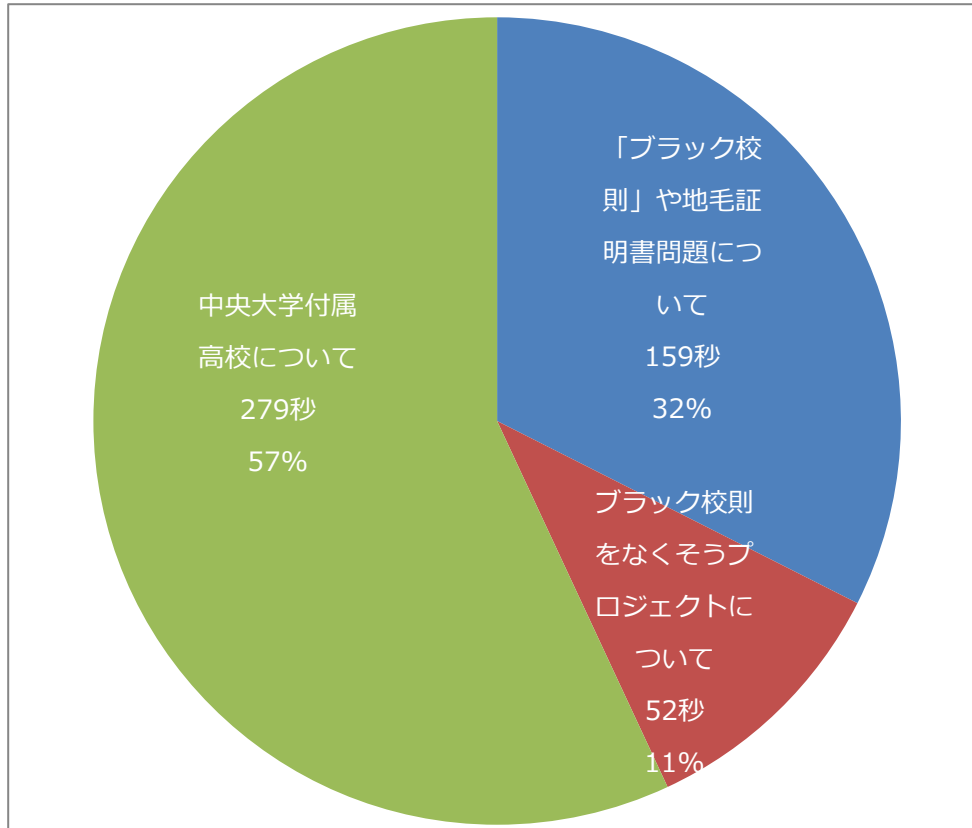
検証者所感

・税制改革について「個人向け増税」という単語が頻繁に使われているように感じられた。法人かけられる税制ではないことを踏まえると事実から外れている訳ではないが、あまりにも繰り返されるため、政府に対する反感を煽っているのかと邪推してしまう。今回の税制改正が何のために行われたものか、といった解説があるとより公平感のある内容になるのではないかと感じられた。

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2017年12月15日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ：北朝鮮漁船、ブラック校則、北朝鮮拉致問題、国連安保理		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国の警備員、韓国メディアを集団暴行、中韓関係に冷水 背景としてTHAAD、アメリカのミサイル防衛システム、日米韓の安全保障協力があげられた ・北朝鮮漁船 ・【追跡】ブラック校則 ・日馬富士暴行事件、貴ノ岩への聞き取りが困難 ・富岡八幡宮殺人事件 ・ジェンキンスさんの告別式 ・【なくせ！危険運転】東名高速道路事件、検察では殺人罪の適用が議論されていたことが発覚 ・スポーツ報道 ・天気予報 ・【速報】国連安保理閣僚級会合、北朝鮮の大使も出席 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北朝鮮漁船 北朝鮮の木造船についてだが、今回は漂着船の話ではなく、木造船が日本の排他的経済水域内にあるカニの好漁場である大和堆で違法操業していること、北朝鮮の違法操業および北朝鮮漁船からの投石や漁の仕掛けの盗難の被害に遭っている鳥取県の漁師へのインタビューが報じられた。このトピックについて報じられた時間は275秒だった。今回は4条の見地から問題となる点はなかった。 ・ブラック校則について 大阪の府立高校の女子生徒が生まれつき茶色の髪を黒染めするように繰り返し指導されたことについて、その後不登校になった女子生徒は精神的苦痛を受けたとして大阪府を相手に訴えを起こした、ということきっかけに、生徒に対して理不尽な校則、いわゆる「ブラック校則」について教育関係のNPO法人が中心となって「なくそうブラック校則プロジェクト」を立ち上げたことが報じられた。また、このプロジェクトは、行き過ぎた校則を調査して意見を募り議論を呼び起こしたい考えで、更に署名も集め来年3月にも文部科学大臣に提出する予定だということも併せて報じられた。更にこのトピックの後半では、自主・自治・自律を掲げる校風で基本的には校則が殆どないという中央大学付属高校の学校内の様子や生徒のコメント、「成績が悪くなってもそれはやっぱり自分がサボった責任だよね、っていうのは強く面談でも言ってますし、自由を許してるからいいことばかりではないし代償もそれなりに伴っているけど、やっぱり失敗しながら自由っていうのをほんとうの意味を本人たちに噛み締めてもらいたい」という生活指導主任のコメントが紹介された。 この問題について現時点では4条の見地から検証するようなテーマではないが、「なくそうブラック校則プロジェクト」が集めた署名が文部科学大臣に提出された場合は、文教政策のテーマとして政治的な報道ともなる可能 		

性も大いにあると考える。

なお、このトピックについて報じられた時間は490秒であり、主に「なくそうブラック校則プロジェクト」について、いわゆる「ブラック校則」について、中央大学附属高校の構内の様子について、が取り上げられており、それぞれの時間配分及び比率は以下のとおりである。



・北朝鮮拉致問題

拉致被害者の曾我ひとみさんの夫、ジェンキンスさんの告別式が行われたことが報じられ、参列した蓮池薫さんのコメントが紹介された。このトピックについて報じられた時間は49秒だった。今回は4条の見地から問題となる点はなかった。

・国連安保理

国連安保理の閣僚級会合が開催されること、北朝鮮の大使も出席すること、今回は日本が議長国として河野外務大臣が議長として出席すること、会合に先立って河野外務大臣とアメリカのティラーソン国務長官が日米外相会談を行ったことが報じられた。またスタジオでは星キャスターによって安保理では利害関係国は出席して意見をいうことができるという規定があり、北朝鮮はこの規定に基づいて大使を出席させたということが補足された。このトピックについて報じられた時間は53秒だった。今回は4条の見地から問題と成る点はなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・北朝鮮漁船

北朝鮮漁船については漂着したという事実や、地元住民や漁師の声が報じられることは多い一方で、この問題に対する政府の対応であるとか国会での議論が報じられることが殆どないように感じるが、実際のところ政府はどういった対応を考えていて、国会ではどう受け止められているのだろうか。

・ブラック校則

校則がなく、生徒の自主自律を重んじながらもやっつけていける学校の例として中央大学付属高校が紹介されていたが、この高校は生徒の大半が付属の中央大学に進学する事ができ、中央大学に進学しない生徒も国公立大学や私立大学に進学する学校である。また、附属中学校から内部で進学するにしても高校の段階から進学するにしても相応の入学難易度がある。内部進学先の中央大学が附属高校の校風に理解を示している点、外部に進学する場合でも中央大学付属高校の評判や校風とは無関係に試験によって個人が評価されるため、学校としても厳しい校則で縛る必要がないのであって、これが卒業後は学校推薦で地元の企業に就職するような実業高校などでは中央大学付属高校のような話にはならないように思える。

学校の一つのあり方ではあるが、この中央大学付属高校を例として出すならば、そういった背景事情も伝えておいたほうがよいのではないだろうし、校則というのを継続的に取り上げるのであれば、校則が厳し目の学校がなぜ学校として厳しい校則を課しているのかというの、報じて欲しいところではある。